

1 産地の概要

＜対象地域＞ 掛川市、菊川市、御前崎市、牧之原市、島田市、藤枝市、川根本町、磐田市、袋井市、浜松市、森町

＜対象品目＞ 茶

＜産地の現状・課題＞

- ・県内の茶園の多くは小区画で、生産者が管理する茶園は分散しているため、農繁期(摘採(収穫)時期)である4～5月や6月の省力化に向け、摘採面積の6割において乗用型茶園管理機を導入している。
- ・一方で、乗用型茶園管理機はオペレータによる高度な操縦技術が必要であり、特に防除時の散布むらや散布量過多の是正が課題である。
- ・また、労務状況の把握を作業日誌等により行っているため、ほ場ごとの作業時間や栽培管理情報を集計・解析するための労務が煩雑である。
- ・作業計画についても、目視による環境・生育状況の判断に基づき作成しているため、作業適期判定基準の個人差が大きく客観性に欠ける。

2 検討体制

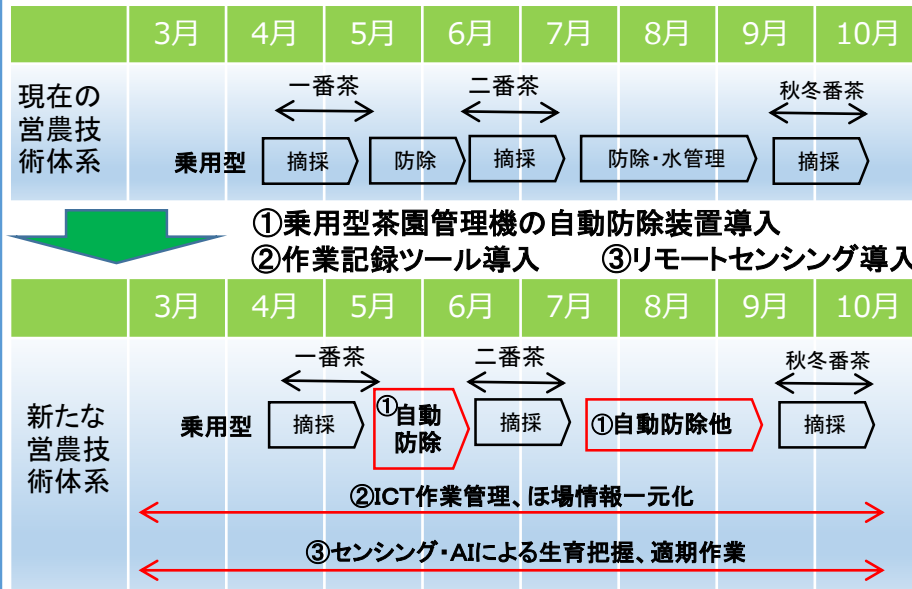
＜スマート茶業確立推進協議会の構成員と役割＞

- ・生産者 (役割: 計画策定への助言、研修会への協力)
- ・カワサキ機工(株) (役割: モデル機械の実演、検討会での情報提供)
- ・農協・経済連 (役割: 計画の検討・策定、研修会の実施、事務局)
- ・県(志太榛原農林事務所) (役割: 事業実施への助言、計画の策定支援)

3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

乗用型茶園管理機の自動防除装置、作業記録ツール、リモートセンシング技術、情報一元化システム等の導入により、広域に分散した多数の茶園を省力・精密に管理する生産体系を目指す。



＜新たな営農技術体系の効果(検証結果)＞

乗用型茶園管理機の自動防除により、**農薬散布時間を19%、散布量を10%削減**

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R2	R3	R4
県・農林事務所	スマート技術の導入推進、経営支援		
JA・経済連	スマート農業に関する情報発信、技術支援		
生産者	スマート技術導入、経営効果の検証		



研修会の様子



自動防除装置検証の様子